

特17-705



1200600781928

718
2
80

法學士東京大學准講師

渡邊安積著

增訂

詐欺詳說

全



特
7

始



特17
705

訂增
詐
欺
詳
說

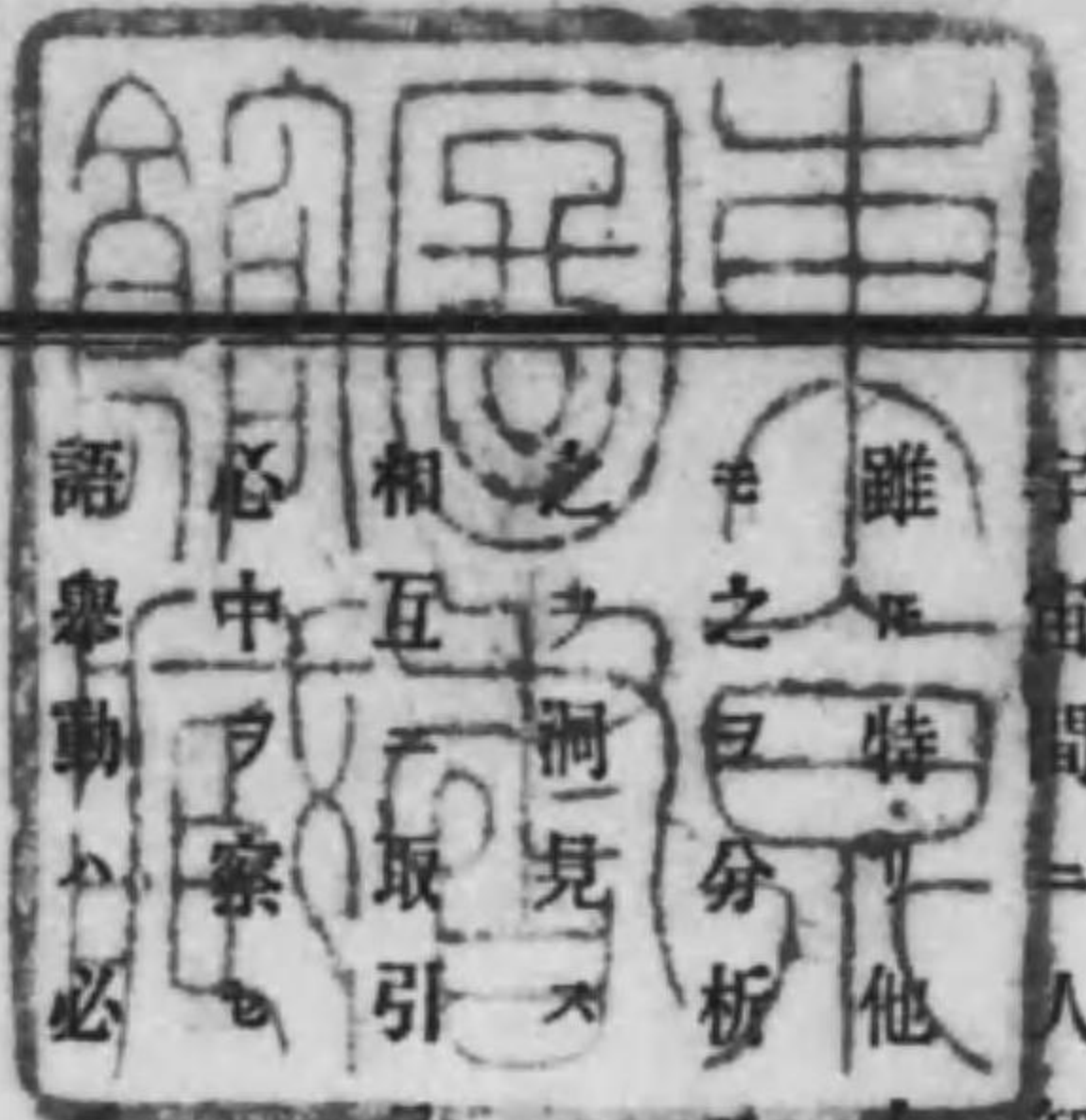
法學士東京大學准講師渡邊安積著

全

明治十八年四月再版



詐欺詳説



宇宙間ニ人智ヲ以テ測リ知ルベカラサル者ハ殆ド無シト
 雖ニ特ニ他大ノ思想ニ至リテハ如何ニ老鍊ノ化學家ニテ
 之ヲ分析スル能ハス如何ニ精妙ノ顯微鏡ヲ以テスルモ
 之ヲ洞見スベカラズ斯ク不可思議ノ思想ヲ包藏セル人ガ
 相互ニ取引ヲ爲スニ方リテハ何ヲ目當テトシテ相手方ノ
 心中ヲ察スシ乎唯言語ト舉動トノ二者アルノミナレモ言
 語舉動ハ必スシモ心中ノ寫眞ナリト速了スベカラズ心中
 ニ思フ所ト言行ニ顯レタル所トハ全ク相表裏クルモア
 ルベシ商業上又ハ其他ノ要務上ニテ取引ヲ爲スニ方リ相
 手方ノ者ガ言語舉動ヲ以テ如何ニモ吾レニ都合ヨキ事ヲ
 表示シタルヲ信シ大金ヲ出シテ取引ヲ爲シタルニ其言行

ハ跡形カダモナキ虚事ソラゴトニテアラシクハ吾レノ損耗ハ果シテ幾
干ゾヤ去リトテ此ノ人心ノ測リ難キヲ怖レ手ヲ束子テ取
引ヲ爲サマルモハ人間社會ノ需要ハ壅塞シテ満足ヲ得ル
ノ期ナカルベシ洵ニ以テ困難至極ノ場合ト云フベシ於是
乎法律ノ設ケアリテ一ハ以テ詐欺ヲ行フコトヲ防ギ一ハ以
テ詐欺ニ陥リタル者ヲ救ヒ以テ取引ヲ爲ス者ヲシテ幾分
カ不測ノ人心ヲ危懼スルノ念ヲ薄カラシム本編ハ則チ是
レ等ノ事ヲ詳論スル者ニシテ實地取引ノ例三十餘件ヲ舉
ゲテ詐欺ト認メラルベキ言行ト被欺者ヲ救済スル方法ト
ヲ明示シタレバ法學者ハ申スニ及バズ商業ニ從事セラル
ル人々ノ爲メニハ多少ノ裨益アルベシト信ズルナリ

明治十八年一月

渡邊安積 識

增訂 詐欺詳説

法學士東京大學准講師 渡邊安積 著述

刑法ニ於ル詐欺ノ結果ハ本論ノ講究スル所ニアラズ本論
ニ於テハ専ラ民事上殊ニ契約ニ關シテ詐欺ノ性質種類結
果等ヲ詳ニ説明セント欲スルニ在ルナリ

詐欺ノ性質ト詐欺ノ種類トハ全ク殊別ナルニ拘ラズ往々
此ノ差別ヲ看過スルノ弊アリトス凡ソ詐欺ヲ論究スルニ
ハ第一ニ詐欺ノ性質ハ如何ト問ヒ第二ニ如何ナル事實ヨ
リシテ詐欺ヲ推定スルカト問フヲ要ス

第一 詐欺ノ性質

詐欺ニ實事[○]上ト思量[○]上トノ別アリ最初ニ思量上ノ詐欺ノ
コトヲ論ズベシ思量ト云フコトハ法律ニハ間マ使用スル所ノ

文字ニシテ其意味スル所ハ要スルニ實際ノ如何ニ拘ラズ
法律上ニ於テ或ル事實ノ存在セルヲ測定スルト云フニ
在リ然レモ之ヲ實際ニ適用スルニハ二個ノ方法アリトス
第一ハ法律ガ一箇ノ新種類ノ詐欺ヲ製造スルキナリ即チ
或ル事實ハ素ヨリ詐欺ヲ形ヲヅクルトナルガ今法律ハ他
ノ事實モ亦詐欺ヲ形ヲヅクルベシト定ムル場合はレナリ
斯クノ如キ方法ヲ以テ詐欺ヲ思量スルキハ是レハ主法即
チ民法ノ規則ニ屬スベシ○然ルニ又思量上ノ詐欺ヲ以テ
單ニ證據法ノ一規則ト看做スベキ意味ニ解スルヲ得ベ
シ此ノ場合ニ於テハ思量上ノ詐欺トハ尋常ノ詐欺ニ異ナ
クタル一種新ナル詐欺ヲ作ルニ非シテ唯尋常ノ詐欺ノ
存在スルヲ證明スル方法ヲ指シ言フニ外ナラザルナリ

例セバ負債主ガ債主ノ爲メニ財産差押ヘヲ受ケンヲ慮
リ之ヲ避ケンガ爲メニ其財産ヲ他人ニ讓渡スルハ此ノ所
爲ハ疑ヒモナク詐欺ナリトス然ルニ物品ヲ他人ニ賣渡シ
ナガラ尙ホ之ヲ所持スルニ於テハ其所爲タル債主ニ對シ
テハ思量上ノ詐欺ナリト云ヘリ米國ノ或ル州ニテハスカ
ル所爲ヲ以テ斷然詐欺ナリト定メタリ今爰ニ思量上ノ詐
欺ト言フ者ハ或ハ一種新ナル詐欺ナリトノ意味ニモ解シ
得ベク或ハ尋常ノ詐欺ノ存在スルヲ示ス所ノ一例ナリ
トノ意味ニモ解シ得ベキナリ此ノ點ニ關シテハ法律ハ未
ダ一定ノ見解ヲ有セザルガ如ク裁判所ノ判決ヲ見ルニ前
ノ意味ニ解スル例モアリ後ノ意味ニ解スル例モアルナリ
去レモ余ハ思量上ノ詐欺ト云フキハ己ニ知ラレタル一種

詐欺ヲ行ヒタルヲ證スルノ證據ヲ指ス者トスルヲ適當
ナリト思惟セリリヨリホムニ對スル訴訟ニ於テハ
被告ハ修驗者ノ類ニテ自ラ神通力ヲ有シ能ク死者ノ魂魄
ト接遇スルヲ得ルト揚言セリ原告婦人ハ嚮ニ其良人ヲ
失ヒタル者ナリケレハ被告ハ巧言ヲ以テ原告ヲ籠絡シ遂
ニ原告ハ許多ノ財産ヲ被告ニ讓渡スニ至レリ此ノ場合ニ
於テ裁判所ハ被告ニ於テ原告ニ對シ何カ不正ノ所爲アリ
タルニ相違ナシトテ之ヲ思量上ノ詐欺ナリト認定シタリ
事實上ノ詐欺ノ場合ニ於テハ被告ノ所爲ハ直ニ詐欺タル
コトヲ知り得レト思量上ノ詐欺ニ於テハ前ノ一例ノ如ク直
ニ認メテ詐欺ナリト爲スベキモノナシ然レト其景狀ヲ察
スレバ必ず詭計ヲ用ヒタルニキリハ疑ヲ容レザル所ナリ

以テ思量上ノ詐欺ノ何タルヲ概知スベキナリ
事實上ノ詐欺ハ實際ニ臨ミテハ之ヲ判知スルヲ難カラズ
ト雖モ是ガ定解ヲ與フルヲハ決シテ容易ナラズ蓋シ何レ
ノ詐欺ニテモ不正實又ハ道德上ノ惡事ト稱スル所爲ノ範
圍内ニアル者ニハ相違ナケレト渾テ道德上ノ惡事ハ悉ク
詐欺ナルカト問フニ必ズシモ然ルニ非ヌ要スルニ詐欺ト
ハ如何ナルト云フカト問ニ對シテハ何人モ明白ナル
解説ヲ與フルト能ハザルベシ故ニ詐欺ヲ講究セザニ
ハ徒ニ其ノ定解ヲ恃ムベカラズ宜シク詐欺ノ各種ニ就キ
テ一々之ヲ詳論スベシ

第二 詐欺ノ種類

詐欺ニ種類多シト雖モ就中最モ屢々使用セラルモノハ

偽示(ミスレプレゼンテーション)ト稱スルモノ是レナリ偽示トハ事實ニ違フタルヲ表示スル所爲ヲ指シ云フ者ニシテ必ズシモ他人ヲ詐リ欺クノ心アルニ非ズ故ニ單ニ虛妄ノヲ表示スルモ又欺罔スル爲メニ虛妄ヲ表示スルモ共ニ偽示タルヲ免カレザルナリ然レモ何レノ場合ニ於テモ偽示ニ由リ取結ビタル契約ハ取消スヘキ者トナルナリ(甲) 偽示ヲ爲ス方法○苟モ他人ノ理解シ得ベキ仕方ニテ虛妄ノ事ヲ表示スレハ皆ナ偽示ナリトス故ニ偽示ハ言語ヲ以テスルノミナラス又舉動ヲ以テ爲スヲモ得ベシ最モ通常ナル例ヲ舉クレハ信用アル商人ノ商票ヲ劣品ニ貼付シテ買者ヲ欺ク如キ又ハ糶賣場ニ於テ賣品ヲ高價ニ賣拂ハンガ爲メニ賣主自ラ人ヲ場内ニ派シテ高價ノ糶リ聲

ヲ掛ケシムル如キ是レナリ(一)然ルニ偽示ヲ爲シタル言語又ハ舉動ガ曖昧ニシテ疑ハシキ場合ニハ如何ト問フニ若シ斯カル疑ハシキ言語又ハ舉動ヲ爲シタル人自ラニ於テハ之ヲ或ル一定ノ意味ニ解知シメントノ意思ニ出テ而シテ相手ノ人ニ於テモ亦果シテ其意味ニ解シタラバ其ノ言語又ハ舉動ヲ爲シタル人ハ忽チ語ヲ翻シテ斯カル意味ハ其ノ言語又ハ舉動ノ通常有スベキ者ニ非ズト言ヒテ其ノ責ヲ免カル、ヲ得ズ(二)甲ガ乙ニ向ヒ或ル一定ノ意味ニ於テ理解セラレシヲ期シテ表示ハ言語又ハ舉動ヲ爲シタルニ乙ハ他ノ意味ニ於テ其ノ表示ノ主意ヲ理解シタリ然ルニ其ノ乙ノ解得シタル意味ガ甲ノ期シタル意味ヨリモ至當ノ味意ニソ甲ニ於テモ亦

自ラ乙が多分斯ク理解スルナラントノヲ察知セザルノ
理。ナキ場合ニ於テハ甲ハ乙ガ現ニ理解シタル意味ハ余ノ
豫テ期シタル所ニ非ズト云ヒテ其ノ責ヲ逃ル、ヲ許サズ」
尤モ物品ノ賣買ヲ爲スニ方リテ買主ニ向ヒ其物品ノ善良
ナルヲホ徒ニ稱賛スルハ商家ノ常体ナルガ其稱賛ハ事實
ニ違ヒタルヲアリテ以テ僞示ト爲スベキニアラズ○又人
ノ行爲ハ適法ナルベシト推測スルノ規則ナシ故ニ他人之
ヲ適法ノヲ爲スナラント信シテ却テ不適法タル行爲ニ
テアリシガ爲メニ損害ヲ被ムルモ是レハ僞示ニ因リテ欺
カレタル者ト言フヲ得ズ一例ヲ舉グレバウアー、ド對ホ
ブ、スノ訴件(ロキ、シオ、アナル部四十七卷)ニ於テ被告ハ販賣
ノ爲メ傳染病ヲ病ミ居ル所ノ豚ヲ公ノ市場ニ牽來レリ是

ハ一千八百六十九年ノ傳染病獸類條例ノ五十七條ニ違背
スルノ所爲ナリトス原告ハ此ノ條例モアルコナレバ市場
ニヨモヤ傳染病ヲ患フル獸類ヲ販賣スル者ノアルベシト
ハ氣付カサレバ被告ノ豚ヲ買取りタリ之カ爲メ原告ガ以
前ヨリ飼ヒ置ケル豚ニマデ傳染シテ大ナル損害ヲ受ケタ
リ因テ原告ハ被告ノ所爲ヲ以テ擔保ヲ破リ僞示ヲ爲シタ
ル者トノ訴ヲ起シタレモ判事ブラムウエルハ原告ノ訟求
ヲ斥ケテ曰ハク人ヲ指名シテ命シ又ハ一團集中ノ一員ト
シテ命シ又ハ公衆ノ一部分トシテ命シタル場合ニ非ザル
限りハ人ノ行爲ヲ目シテ彼ハ不正ノ所爲ヲハ爲ササルナ
ルベシトノ推定ヲ爲スノ權利ヲ他人ニ於テ有スベキニ非
ズト云ヘリ蓋シ傳染病ノ獸類ヲ公市場ニ販賣スルコトヲ

社會一般ニ禁シタル法律アレバトテ社會ノ人ハ都テ此ノ
禁ヲ犯シタル所爲ヲ爲サマルベシト推測スル權利ノアル
ベキ理ナケレバ輕シク人ノ所爲ヲ信シテ犯則者ニ非ザル
ベシト思ヒタルハ其人ノ落度ニテ犯則者ガ市場ニ病獸ヲ
賣リタルハ恰モ傳染病ノナキ善良ノ獸類カノ如キ見セ掛
ケ即チ僞示ヲ爲シテ原告買主ヲ欺キタル者ナリト言フコ
ト得ズ

(三)僞示ヲ爲スタメニ其ノ手段ヲ供給スルコトモ亦詐欺ナリ
トス一例ヲ舉グレバフアリナ對シルパ—ロツクノ訴件(シヨ
アナル第二十四卷平衡平法ノ部第六百三)ニ於テ原告ハ有名
十二面及ヒ同書第二十六卷第十一面)ニ於テ原告ハ有名
ナル「オイユ、ヅ—、コロ—」ノ製造人ナルガ其ノ製造品ニ貼
付スル札及ビ商票ヲ或ル印刷人ニ於テ常ニ摸擬シ出版シ

テ販賣セシカバ原告ハ其ノ出版ヲ差止メントヲ出訴ニ及
ビタリ初審ニ於テハ之ヲ差止メタレ。他ノ事實ニ由リテ
覆審ノ中ニハ其差止ヲ解クヘキ言渡ヲ爲シタリ今夫ノ商
票ヲ擬版スルコトヲ差止メタル理由ニ於テハ決シテ動カス
ベカラザル眞理アルコト明ナリ即チ判事ウ—ドノ判決ニ曰
ク賣買スル爲メニ他人ノ商票ヲ摸造スル場合ニ於テ若シ
其摸造ノ商票ハ世人ヲ欺ク爲メニ使用セラレ得ベキ者ヲ
ル限リハ其摸造ヲ爲スコトヲ差止ムベキ者トス其ノ摸造ノ
爲メニ實際原告(即チ物品ノ製造人)ガ損害ヲ被リタルノ證
アルト否トヲ問ハザルナリ且ツ其ノ摸造ハ詐欺ヲ行ハシ
トノ意思ニ出デタルノ證ヲ舉示スルヲ要セズ又人ヲ詐欺
スル爲メニ現ニ使用セラレタルコトヲ證スルヲモ要セズ一

且被告ニ於テ他人ニ詐欺ヲ行ヒ得ベキ道ヲ得セシムル上
ハ是レ即チ其ノ所爲ヲ檢束スベキ十分ノ理由アリトス決
シテ其ノ詐欺ノ全ク執行セラル、マデハ手ヲ束テ待ツ
ベシト云フノ理アラザルナリト云ヘリ然ルニ此ノ裁判ヲ
覆審ノキニ繰反シタル理由ハ摸造ノ商票ハ詐欺ヲ行フ爲
メニ用フルニ非ズシテ原告ノ製造セル真正ノ「オイユ、ツ、コ
ロ」ニ入レタル瓶ノ札又ハ商票ノ汚染シタル節小賣人
ニ於テ之ニ改貼スル爲メニシタル者ナレバ全ク正當ノ目
的ニ出デタルナリトノ事實ニ據リタルナレバ原裁判ニ云
ヘル詐欺ノ豫備ヲ爲ス者アラハ其ノ詐欺ヲ執行シ了ルヲ
待タズシテ檢束ヲ加フベシトノ理由ハ動カス可カラサル
ヲ見タルコトヲ知ルベシ

(四)語ル所ハ事實ニ違ハザルモ全部ノ事實ヲ告ゲズシテ徒
ニ其一半ヲ告ゲテ他ノ一半ヲ遺スルハ是レ又偽示ナリ
トス

(五)單一ノ緘黙ハ偽示ニ非ズ例バ清佛ノ戰爭中ハ米價非常
ニ騰貴シタリトセンニ己ニ其ノ戰爭ノ終リタル後ニ米ノ
賣買ヲ爲スモノガ其ノ戰爭ノ終リタル事實ヲバ全ク無言
ニ付シテ戰爭中ノ如キ高貴ノ價格ニテ他ノ商人ニ賣渡シ
タルコトアラシニ之ヲ買取リタル商人ハ清佛尙ホ交戰中ノ
コト信シテ高價ニ買受ケタルニテ己ニ平和ニ歸シタルコ
ト知リタラバ決シテ其ノ價格ニテハ取引セザルベシトテ
賣主ガ平和ニ歸シタルコトヲ無言ニテ高價ニ賣付ケタルハ
詐欺ナリト言フモ其ノ申分ハ採用セラレザルベシ

然レモ右ノ如ク單ニ緘黙シテ事實ヲ不告ニ付スルニ非ズ
シテ自ラ隱蔽ヲ爲スニ於テハ僞示ナリト認メラルベシ隱
蔽トハ自ラ術ヲ設ケテ相手人ヲ妨碍シテ事實ヲ知ルコトヲ
得ザラシムルヲ云フナリ即チ殊更ニ詭計ヲ運ラシテ賣品
ノ缺點ヲ隱蔽スル如キ又ハ我が舉動ニ因リテ相手人ニ事
實ニ違フタル事柄ヲ信セシメ乍ラ其事實ヲ明サズシテ尙
ホ彼レガ妄信シテ行爲ヲ爲スヲ傍觀スル如キ又ハ我モ事
實ナリト信シテ不實ノコトヲ示シ彼ヲシテ其不實ヲ信ゼシ
メ而シテ我ハ後ニ至リテ其ノ果シテ不實タルコトヲ發見シ
乍ラ其ノ旨ヲ彼ニ告知シテ妄迷ヲ晴ラサマル如キハ皆隱
蔽ト稱スベキ者ニシテ僞示ト認メラルベク彼ノ單一ノ緘
黙ト區別セザル可カラザルナリ

尤モ單一ノ緘黙ニテモ場合ニ由リテハ僞示ノ結果ヲ來ス
コアリ其ノ場合ト言フハ先ヅ婚姻ノ契約、海上保險ノ契約、
會社ノ株券ヲ受クベキ契約、保證ノ契約、土地賣買ノ契約、債
主トノ和解、信任上ノ關係アル人(後見人ト幼者トノ如シ)仲
裁ニ委任スル人等ノ場合是レナリ是等ノ場合ニ於テハ相
手人が知得スルキハ多少其ノ取引上ノ判斷ニ影響ヲ及ボ
スベシト思ハル、事件ニ付キテハ總テ之ヲ告知セザル可
カラズ

(乙) 表示ノ眞實ナルコトニ關シ表示者ノ信憑^{ビリフ}○表示ヲ爲ス
者其ノ虛妄ナルコトヲ知リツ、之ヲ爲シタルニ非ザレハ詐
欺ニ出デタル僞示ト爲スコトヲ得ズトハ往々裁判官ノ判決
文中ニモ見ヘタル說ナルガ必ズシモ何レノ場合ニ於テモ

然ルニハ非ズ即チ之ヲ詳論スル左ノ如シ

(一)表示ヲ爲ス者ガ其表示シタル事柄ノ眞實タルヲ信ゼザルキハ其表示者ノ思想ハ左ノ三箇ノ場合中ノ何レニカ存スベシ即チ其表示者ハ其表示ノ虚妄ナルヲ知ル場合(第一)其表示ヲ虚妄ナリト信ズル場合(第二)虚妄トモ眞實トモ信ゼザル場合(第三)是レナリ而シテ事柄ノ眞實タルヲハ自ラ信憑セズシテ之ヲ他人ニ表示スルニ於テハ是レ即チ詐欺ニ出デタルノ偽示ナリト認ムベキ者ナリ

(二)始メ表示ヲ爲シタルキハ自ラ其事柄ヲ眞實ナリト信憑シ居タレモ後ニテ其虚妄タリシヲ覺知シタルモ緘黙シテ之ヲ告ゲザル場合ハ如何ト云フニ若シ其虚妄タルヲ覺知シタル時ガ其取引ノ未タ終結セザル前ニテアリシナ

ラバ之ヲ緘黙シテ告ゲザルハ詐欺ニ出デタル偽示タルヲ免カレズ然レモ既ニ其取引ヲ終結シタル後ニアラバ之ヲ告ゲザルモ偽示ト爲スベカラス

(三)自ラ眞實タルヲ信憑シ誠意ヲ以テ表示シタルヲ實ハ虚妄ニテアリシキ即チ誠意ニ出テタルノ偽示ハ如何ナル結果アルベキ乎曰ク表示ヲ爲シタル者其事柄ノ眞實タルヲ信憑シテ爲シタル場合ニハ設ヒ虚妄ノ表示ニテアリシトモ之ヲ詐欺ナリト爲スコトヲ得ザルヲ一般ノ規則トス

然レモ右一般ノ規則ニ付キテハ一二ノ制限アリ即チ表示ヲ爲シタル者ガ其表示シタル事柄ノ虚實ヲ探知スルニ特別ナル便宜ヲ有スルキハ若シ多少疑ヲ存スルノ言語ヲ用

ヒズシテ斷然タル辭ヲ以テ事實ニ違フタル事ヲ表示シタ
ルニ於テハ其表示者ハ詐欺ノ責ヲ免カレズ而シテ其契約
ハ取消シ得ベキ者トナルナリ請フ二三ノ實例ヲ舉ゲテ其
意ヲ明ニセシ

スリンム對クラウシア(衡平法部二百七十三卷)ニ於テ
甲ハ乙ヨリ金額ヲ借受ケント欲シ其抵當ト爲スベキ財產
ヲ有スルコトヲ示サン爲メニ甲ハ丙(即チ貸地人)ヨリミッド
ルセツキスニ於テ若干ノ地面ヲ借地契約ニ由リ借用スル
ノ權ヲ有スル旨ヲ乙ノ代言人ニ語レリ又丙(貸地人)ハ甲(借
地人)ノ求メニ應ジ一千八百五十六年十二月ノ日附アル書
狀ヲ以テ甲ヘ右地面ヲ貸與スル旨ヲ乙ノ代言人ニ言送リ
タリ依テ丙(貸地人)ハ翌一千八百五十七年一月ニ於テ甲ヘ

右地面ヲ貸與シタリ從テ甲ハ乙(貸地主)ヘ其借金ノ抵當ト
シテ右借地ヲ重貸シタリ然ル所丙ハ此ノ地面ヲ一千八百
五十六年八月六日ニ既ニ甲ニ貸與シ居タレバ甲ハ之ヲ乙
ニ抵當ニ入レタル前ニ既ニ丁ニ抵當ニ入レタルコトヲ乙
ガ發見シタリ而シテ右一千八百五十六年八月六日ニ貸與
シタルコトハ同月ノ二十三日ニ其筋ノ帳簿ニ登記シタル者
ナリ右ノ如キ事實ナレバ乙ハ其貸金ヲ速ニ取戻サンコト
ヲ請求セリ裁判所ノ判決ノ大意ヲ舉グレバ乙ハ甲ヘノ貸
金ヲ丙ヨリ辨濟セシムルノ權アリ何トナレハ丙ガ其地面
ヲ先キニ甲ニ貸與シタルト否トノ事柄ハ特ニ丙ノ知悉ス
ル所タルベキ筈ナルニ丙ハ乙ノ請求ニ對シ單ニ一千八百
五十七年一月ノ貸地(即チ後ノ貸地)ヲ爲シタル時ニハ其前

ニ既ニ貸與シ居タル事柄ヲ忘却セリト答辯シタルニ過ギ
ザレバナリ云々トアリ蓋シ此ノ判決ノ意ヲ熟考スルニ乙
ガ甲ニ金圓ヲ貸渡シタルハ全ク甲ヨリ相當ノ抵當物ヲ取
リタリト思惟セタルガ故ナリ然ルニ乙ハ其抵當物タル甲
ノ借用地ハ一千八百五十七年ニ始メテ借受シタルト信
ジ斯ク信ズル所以ハ丙(即チ其地ノ所有主)ガ自ラ乙ニ書面
ヲ以テ後日甲ニ貸與スル旨ヲ言送リタルガ故ナリ實際其
前ニ於テ己ニ甲ニ貸與シ居タルコトハ其地主タル丙ニ於テ
之ヲ知ルニ非ザレバ誰レカ能ク之ヲ知ラシヤ其貸地ノ事
ニ關シハ丙ノ一言千金ヨリ重シ丙ノ言ハ他人必ズ之ヲ信
ズルノ傾キアルベシ然ルニ今丙ハ斯ク特別ナル知識ヲ有
シナガラ偽示ヲ乙ニ向テ爲シタル上ハ之ニ依リテ損害ヲ

乙ニ負ハシメテ止ムヘキ答ナシ丙必ズ其損害ヲ償フノ責
ニ任スルハ洵ニ當然ノ理ト言ハザルヲ得ズ是レ丙ガ乙ニ
向テ甲ノ負債ヲ辨償ス可シト言渡サレタル所以ナルベシ
ローリンズ對ウヰリアム(卷一、シヨアナル二十八面)甲ト乙ハ
商業組合ノ目的ヲ以テ一ノ銀行ヲ起セリ但シ實際其商社
ノ事務ヲ取扱フコトハ都テ乙ノ擔任スル所ニシテ甲ハ其
事務ニ付キテハ一切干涉セザルモノナリ扱テ甲乙兩人ハ
丙者ヲシテ其商社ニ加入ヲ爲サシメント欲シ其掛合ニ及
ビタルガ其時丙ニ該商社ノ景况ヲ示ス爲メニ一覽ニ供セ
タル書類ニハ一萬五千磅丈餘分ノ付ケ掛ケヲ爲シテ商業
ノ盛況ヲ擬裝シタリ然レモ斯カル事ハ甲ノ曾テ知ラザル
所ニシテ甲ハ書類ニ記載シタル所ヲ以テ全ク眞實ナルモ

ノト思惟シタルヲナリ丙ハ此ノ甲乙ノ掛合ニ應ジテ銀行
ノ商業ニ加入シ爾後四年間其事業ヲ行ヒ其間更ニ商社ノ
帳簿ヲ檢閲シタルヲハナカリキ然ルニ丙ハ其後右帳簿ニ
記載スル所ハ大ナル詐欺ニ出デタル者アルヲ發見スル
ヤ直ニ甲及ビ乙ニ對シテ訴訟ヲ起シタリ但シ未タ對審ノ
始マラザル前ニ甲ハ死去シタルニ付キ乙ニ對シテ審判ヲ爲
シ遂ニ丙ノ勝訴トキマリ賠償金ハ仲裁人ニ命ジテ査定セ
シムベキ旨ヲ言渡サレタリ然ルニ乙ハ其中ニ無資力破産
ト相成リタルニ付キ丙ハ甲ノ死後管財人ニ對シ再ビ起訴
シテ其遺留財産中ヨリ賠償ヲ得ンコトヲ請求シタリ裁判所
ノ判決ニ曰ク事柄ノ虛妄タルヲ知ラズシテ表示ヲ爲シ
タル場合ト雖モ自ラ其責ニ任ズベシ即チ其虛妄ノ表示ヲ

信シテ契約ヲ取結ビタル者ハ其契約ヲ廢棄センコトヲ請求
スルノ權利アルナリ今原告ハ其契約ヲ取結ビタル以來四
年間商業ヲ營ミナガラ帳簿ヲ檢閲セザルハ甚ダシキ懈怠
ナレバ此ノ期ニ至リテ契約ヲ廢棄スルノ權アルベカラズ
ト答辯スレモ原告ハ決シテ帳簿ヲ檢閲スルノ義務ヲ有セ
ザルコトナレバ之ヲ檢閲セザルヲ以テ其懈怠ナリト云ヒ立
テ、被告ハ自ラ其偽示ノ責ヲ免カル、ノ口實ト爲スコト
ヲ得サルナリ

リ、ズ、リ、バ、一、銀、鑛、會、社、支、配、人、對、ス、ミ、ッ、ス、
百、四、十、ノ、訴、件、ノ、事、實、ハ、此、採、鑛、會、社、ノ、廣、告、書、ニ、ハ、子、バ、ダ、ニ
九、面、大、ノ、價、格、ア、ル、鑛、山、ヲ、採、掘、ス、ル、ヲ、目、的、ト、ス、ル、旨、ヲ、記
載、シ、タ、リ、又、組、合、規、約、ニ、於、テ、ハ、右、ノ、外、ニ、モ、鑛、山、ヲ、手、ニ、入、レ

テ採掘スル旨ヲ認メアリタリ蓋シ廣告書ニ莫大ノ價額アル鑛山ト記セシハ今同會社ガ他ヨリ買入レントスル約定ヲ取結ビ居タル鑛山ヲ指シタル者ニテ之ヲ莫大ノ富源ノ如ク言ヒシハ全ク賣主ノ口振リヲ信シテ斯ク記セシニテ同會社ノ支配人ハ其事實ヲ檢査シタルニハアラザレモ自ラ眞實ナリト信シ誠意ヲ以テ記載セシコハ相違ナシトス此ノ廣告書ヲ弘布スルヤスミスハ之ヲ信用シ果シテ此ノ言ノ如クナレバ同會社ノ事業ハ中々盛大ナリト思ヒ百株程ノ申込ヲ爲シタリ然ルニ同會社ハ右ノ買入約定ヲ爲シタル鑛山ノ實地ヲ檢査セシムル爲メニ代理人ヲ派出シタル所其ノ報告スル所ニ據レバ莫大ノ富源タル鑛山ト言ヒシハ全ク賣主ノ虛言ニテ毫モ價ナキ鑛山ナリトコナレバ

會社ノ支配人ハ大ニ驚愕シ直チニ廻章ヲ以テ此ノ旨ヲ株主ニ報告シ且ツ右代理人ノ指圖ニ由リ右鑛山買受契約ヲ破談トシ別ニ望ミアル鑛山ヲ買入ル、旨ヲモ報道ニ及ビタリスミスハ此ノ報告ヲ得テ暫時ノ猶豫ノ後自分ノ姓名ヲ株主ノ名簿ヨリ削除アラントコヲ請求スルノ訴ヲ起シタリ然ルニスミスカ此ノ訴ヲ起シ未タ審判ニ取掛ラサル前ニ此ノ鑛山會社ハ閉店ヲ申付ケラレタリ扱テスミスガ此ノ訴訟ヲ起シタル所以ハ會社ノ廣告書ニ虛妄ノ表示アリタルガ爲メニ誘ハレテ株主トナルノ契約ヲ爲シタルナレバ今其虛妄タリシコ明ナル上ハ除名ヲ請フトノ主意ナリ裁判所ノ判決ニ曰ハク廣告書ニ該鑛山會社ノ一般ノ目的ニ關スルコヲ記シタルハ誤リナキニモセヨ其最初ニ着手

スル眼目ノ事業ノ一ニ付キテ虚妄ノ陳述ヲ爲シタル一或
 ニテスミスノ株主加入ノ契約ヲ取消スニ充分ノ理由アリ
 トス又支配人ハ廣告ニ記載シタル事柄ノ眞實ナルカ否
 ヲ查確スルノ義務アルガ故ニ若シ虚妄ニテアルハ支配
 人自ラ其虚妄タルヲ知得シ居タルト否トヲ問ハズ必ズ
 其責ヲ免カサルヲ得サル者トス又裁判所ハ一千八百六
 十二年發布ノ會社條例第九十八條ニ由リ會社ノ閉店ヲ命
 ゼラレタル後ニテモ株主名簿ヲ正誤スルノ權ヲ有スル者
 ナリ以上ノ理由ニ由リ裁判所ハスミスノ名ヲ該鑛山會社
 ノ株主名簿ヨリ取除クヲ命ズ云々
 右三箇ノ實例ヲ熟閱スルハ僞示ヲ爲シタル者其表示シ
 タル事柄ノ僞示タルヲ知ラズ全ク眞實ナリト信憑シタ

ルト雖モ或ル場合ニ於テハ自ラ詐欺タルノ責ヲ被ムル
 一ヲ覺知スルニ足ルベシ而シテ今其規則ヲ約説スレバ則
 チ左ノ如クナルベシ云ク契約ヲ爲ス一方ノ者其契約ノ事
 柄ノ虚實ヲ檢知スル爲メニ特別ノ便宜ヲ有スルノ地位ニ
 在リテ、他人モ其然ルヲ知り、其言フ所ニ信用ヲ置ク場合
 ニ於テ、斷然明晰ナル表示ヲ爲シナガラ、曾テ其便宜ノ手段
 ヲ利用シテ事實ヲ檢知セズ、而シテ其表示シタル事柄ハ果
 シテ虚妄ニテアリシコト明白トナリタルトキハ此ノ表示者
 ハ詐欺ノ責ヲ免カレザルナリ
 右ニ述ベタル所ノ詐欺ノ存在スル場合ニハ損害ノ要償ヲ
 訴フルノ權アルベシ若シ夫レ單ニ誘惑ニ出デタル契約ヲ
 取消サント欲スルニ止マルノ訴ナラバ右ノ外尙ホ罪過ノ

輕キ偽示ニテモ起訴ノ原因トナルベシ人若シ事ノ眞實タルヲ自ラ信憑スルニ由リ斷然タル明言ヲナシテ其事ヲ表示シ以テ他人ヲ誘フテ契約ヲ結バシメタリトセンニ其表示者ニ於テ其事ヲ眞實ナリト信憑スベキ理由ヲ有セザルナラバ其表示ニ誘ハレテ結約シタル者ハ其契約ヲ取消サンコトヲ認求スルノ權アリ又其表示ヲ爲シタル者ヨリ強テ其契約ヲ履行セシメンコトヲ認求スルモ裁判所ハ決シテ之ヲ許ササルナリ左ノ例ニ就キテ其意味ヲ詳解スベシ

ロード、ブルークョリラウンツウエイトニ對スル訴件(シロヨ、アナル、十五卷(平)ハ山林賣買ノ契約ニ關ス山林賣拂ノ明細書ヲ見ルニ其山林ハ面積六十五「エーグル」ニシテ柏木ヲ以テ充滿シ其大サハ平均五十英尺ニ達スト認メタリ去レ

ド材木ノ數ハ之ヲ記載セス此ノ賣買契約ノ成リシハ七月四日ノコナリシガ被告買主ハ代金仕拂ノ延期ヲ請ハントテ種々手ヲ盡クシタル後同年ノ九月三十日ニ至リテ山林樹木ノ大サノコニ付キ明細書ニ虛妄ノ表示アルトノ理由ニ據リ其契約ヲ履行スルコトヲ拒ミタリ是ニ於テ原告賣主ハ契約履行ノ訴ヲ衡平法裁判所ニ提出シタリ偕テ被告ノ證據人ノ言ニ由レバ該山林ノ樹木ノ大サヲ平均二十二英尺ナリト云ヒ原告モ亦三十五英尺ヲハ超過セザルコトヲ自認シタリ裁判所ノ判決ニ曰ハク賣買ノ相談調ヒタル時ニハ山林稠茂シテ被告ハ實地ノ測量ヲ爲スコトヲ得ザリシガ故ニ原告ガ其明細書ニ於テ樹木ノ大小ヲ記載シタル者ヲ以テ確定ナル表示ト認メザルベカラズ蓋シ賣主ガ不確定

ハ陳述ヲ爲スニ於テハ買主ハ先ツ自ラ其實否ヲ査定スル
 必要ナリト雖モ賣主ガ賣買ノ目的物ノ價格ニ影響アル
 事柄ニ關シテ確定ナル表示ヲ爲シタル場合ニ於テハ買主
 ハ決シテ斯クノ如ク自ラ實檢スルノ義務ヲ負ハズ故ニ若
 シ其原告ノ表示ガ虛妄ニテアル限りハ被告買主ハ其契約
 ノ履行ヲ拒否スルノ權利アリトス
 シツブヨリクロスキルニ對スル訴件（九卷）、シヨアナル二百五十
 面）ハ會社ノ株券賣買ノ件ナリ會社ハ株主ヲ募集スル爲メ
 ニ廣告書ヲ發行シタルカ其廣告書ニ於テ資本金ノ半額ハ
 已ニ加入ノ申込アリタリト記載シタリ然ルニ此ノ事ハ此
 ノ廣告書ヲ出シタル時ニハ事實ニ違フタルコタリシガ原
 告ガ株券ノ申込ヨリ爲シタル頃ニハ實事ニ相違ナキコナ

リシ又會社ノ支配人ハ其廣告書ノ虛妄タリシコトヲ自ラ
 知ラザリシ裁判所ノ判決ハ原告ガ支配人ニ對シ己ニ拂込
 ミタル株金ヲ辨償セシムルノ權ナシト云フニ在リ乃チ一
 判事ノ說ヲ擧グレバ曰ク若シ重要ノ事件ニ關シテ廣告書
 ト會社ノ扣帳トノ間ニ齟齬シタル廉アルニ於テハ株主ノ
 申込ヲナシタル者ハ其姓名ヲ會社ノ名簿ヨリ削除セシム
 ルノ權利ハ有リト雖モ己ニ拂込ミタル株金ヲ支配人ヨリ
 辨償セシムルニハ支配人ガ自ラ虛妄ナリト知ル所ノ表示
 ニシテ且ツ自ラ其表示ヲ爲スニ加力シタル時ニ限ルベシ
 （丙） 偽示ヲ爲シタル者ノ目的（目的）即チ偽示
 者ノ意思（意思）ニ達スルヲ要ス即チ何人が
 偽示ノ爲メニ欺カル、ヲ要ス蓋シ偽示ヲ爲ス者ハ或ハ一

人ヲ欺カント欲スルヲアリ或ハ一階級ノ人ヲ欺カント欲
 スルアリ或ハ何人コトモ欺カント欲スルアリ例セバ地所
 ヲ賣拂フトノ廣告ヲ爲シ實ハ之ヲ賣拂フニ非ザレハ實地
 見分ノ爲メニ出張シ入費ヲ要シタル者ハ偽示ニ欺カレタ
 ルナリ又偽造ノ商票ヲ貼付スルハ何人ニ限ラズ都テ買者
 ヲ欺クノ目的ナリ左ニ數箇ノ實例ヲ示シテ其詳ナルヲ知
 ラシムベシ

ビークヨリガーニーニ對スル訴件（三〇卷一〇九面）
 會社株券ノ件ナリ會社ハ株主申込ヲ促サント欲シ會社ノ
 景況ヲ詐リ重要ノ事實ヲ隠蔽シテ廣告ヲ爲シタリ人アリ
 此ノ廣告ヲ見會社ノ盛況ヲ信シ已ニ株主タル人ヨリ市場
 ニテ其會社ノ株券ヲ買得シタリ判決ニ曰ハク會社ハ唯此

ノ虛妄ノ表示ヲ信シ直ニ會社ニ向ヒ株券ノ申込ヲ爲シテ
 株主トナリタル者ニ對シテノミ責任ヲ負フベシ市場ニ於
 テ株券ヲ買取リタル者ハ會社ニ向ヒ偽示ノ責ヲ負ハシム
 ルコトヲ得ザルナリ蓋シ偽示ヲ爲シタル支配人ト其偽示ニ
 依リ欺カレ損害ヲ被ムリタリト爲ス所ノ請求人トハ間ヲ
 接續スル（次ノ）關係アルニ非ザレバ偽示ニ付テノ要求ヲ爲
 スコトヲ得スト云ヘリ此ノ判決ニ支配人ト請求者トノ關係
 アルヲ要スト言ヘルハ蓋シ支配人ニ於テ廣告書ヲ發シテ
 表示ヲ爲スニ當リ其目的トスル所ガ單ニ直接ニ株主ノ申
 込ヲ爲ス者ヲ誘ハントスルニ止マラズシテ市場ニテ現在
 ノ株主ヨリ株券ヲ買取ル者マデヲモ誘ハント欲スルニ在
 リシナラバ兩者ノ間ヲ接續スルノ關係アリト言フノ意タ

ルコ明ナリ即チ之ヲ言ヒ換フレバ偽示者ノ意思ガ何人ヲ欺カントスルニ在リシカヲ尋子其意思ノ存スル處ニ於テ偽示ノ責任ヲ生シ其意思ノ存セザル所ニ於テハ責任ヲ負ハシメズト云フニ在ルヘシト思ハル此ノ問題ハ頗ル細微ノ點ニ涉リタレバ或ハ異説ヲ抱クモノモアルベシト雖モ右ノ判決ハ要スルニ公平ヲ得タル者ナルヘシ

スウイフトヨリウインタ―ボタムニ對スル訴件(アロ―、ジョエ十二卷皇帝法)ハ結約者ノ信用ノ有無ニ關スル事ナリ原告廳部百十一卷)ハ銀行ノ願主ナルガラツセルト云フ人ヨリハ「エス及エツチ」銀行ノ願主ナルガラツセルト云フ人ヨリ二千乃至三千磅ノ鐵ヲ買受ケタキ旨ヲ申來リタルニ付キ原告ハ先ツラツセルノ身元ヲ取り糺サント欲シタルニ「ワイ」銀行會社ノ「シ―」支店ハ能クラツセルノ身元ヲ知レリト

ノコヲ聞キ其照會向キヲバ原告ノ出入ナル「エス及エツチ」銀行ニ依頼シタリ依テ此ノ銀行ハ「ワイ」銀行會社ノ「シ―」支店ノ世話役ヘ宛テ左ノ書狀ヲ送リタリ曰ク「サ―」ダブルユ―、ラツセルト云フ者ノ身元ニ付キ尊慮相同ヒ度貴所ニ於テハ同人ハ五萬磅ノ責任ヲ負フニ堪フベキ者ト思考被致候哉信用上ニテ内々得貴意候儀ニ付事實御聞カセ被下度云々」右ノ照會ニ對シ「シ―」支店ノ世話役ナルゴツダルド氏ハ左ノ答書ヲ爲シタリ曰ク「今月八日付ノ尊翰正ニ領承仕候御照會ノ趣サ―、ダブルユ―、ラツセルハチヤレストン、キングスノ領主ニテ其領地ヨリ年々七千磅以上ノ借地料ヲ收入セリ其他將來同氏ノ所有ニ歸スベキ財産モ巨額ナリト聞ク去レバ同氏ハ十分ノ目算ナクシテ濫ニ莫大ノ責任

ヲ負ハル、等ノコハ決シテ之レアルマシト思考候云々「世
話人ゴツダルド之ニ署名セリ然ルニ此ノ書面ニ記載シタ
ル事ハ全ク虚妄ノコニシテゴツダルド自ラモ亦明ニ其不
實タルコヲ知レリ而シテゴツダルドガ右ノ答書ヲ認メタ
ルハ敢テ一私人トシテ爲シタルニ非ズシテ銀行支店ノ世
話役トシテ有スル所ノ權限内ノ事ニ屬スル者ナリ但シ銀
行會社ハゴツダルドガ斯カル書狀ヲ認メタルコトハ曾テ
之レヲ知ラス又格段ニ斯カル書狀ヲ認ムベキノ權ヲ與ヘ
タルニハ非ズ判決ニ曰ハク右ノ書狀ヲ以テ報知シタル事
ハゴツダルド一箇人ノ所爲ニ非ズシテ銀行會社ノ所爲ナ
リト認メザル可カラズ原告ハ「エス及エツチ」銀行ノ願主ナ
レバ右銀行ニ回答シタル書狀中ニ虚妄ノ表示アリタルハ

ハ原告ハ之ニ對スル救済ヲ請求スルノ權利アリトス蓋シ
ラツセルノ身元ヲ糺シタルハ「エス及エツチ」銀行ノ願主ノ
爲ニシタルモノナレバ該銀行ニ向ヒテ同人ノ身元ヲ詐リ
報スルニ於テハ其報ノ必ズ右願主即チ原告ニ達スルハ勿
論ノ事ニシテ被告(銀行會社)ノ豫メ之ヲ知ラザルノ理ナシ
而シテ原告ハ果シテ其報ヲ得テ之ヲ信シ爲メニ損害ヲ被
ムリタル以上ハ偽示者ナル被告ニ對シテ救済ヲ求ムルノ
權アリ若シ夫レ被告ノ表示ハ直ニ「エス及エツチ」銀行ニ向
テ爲シタルモノニテ原告ハ間接ニ其偽示ヲ受ケタルモ被
告ノ責任ニ於テ減ズル所アラザルナリ云々トアリ此ノ判
決ノ意ヲ約言スレハ被告ハ「エス及エツチ」銀行ノ手ヲ經テ
原告ニ虚妄ノ表示ヲ爲サントノ意思ヲ有シタル者ナレハ

原告ノ受ケタル損害ノ責ニ任セザル可カラズト云フニ在
 リ故ニ若シ彼ノ回答ヲ見テ第三ノ人がラツセルヲ信用シ
 損害ヲ被ムリタリモ被告ハ決シテ其人ニ對シ偽示ノ責ヲ
 負ハザルベシ
 ラングリツジヨリレヒ一ニ對スル訴件(卷ロ、シヨアナル、六
 部百三)ニ於テ被告ハ原告ノ父並ニ原告自身ノ使用スル爲
 十小銃一挺ヲ原告ノ父ニ賣渡シタリ然ルニ其小銃ハ危険
 ニシテ不安安全ナル者ニテ被告自ラ其事實ヲ熟知シ乍ラ詐リ
 テ之ヲ堅固ニシテ安全ナル小銃ナリト保證セシカバ原告
 ハ此ノ保證ヲ信用シテ彼ノ小銃ヲ使用シタルニ忽チ破裂
 シテ遂ニ原告ハ其腕ヲ失ヒタリ裁判所ハ原告ニ於テ被告
 ニ對シ充分起訴ノ權利ヲ有スト判決シタリ而シテ其理由ト

スル所ヲ聞クニ云ク原告ハ直接カ間接カニ被告ノ虚妄ノ
 陳述ハ通知ヲ受クル人ニシテ且原告カ彼ノ小銃ヲ使用ス
 ベキヲハ豫テ被告ノ知ル所タリ然ルニ原告ガ其小銃ヲ使
 用スルノ際果シテ破裂シテ損害ヲ生ジタル者トセハ其損害
 ハ則チ被告ガ偽示ヲ爲シタルノ結果ト言ハザル可カラズ
 (二)表示者ガ虚妄ノ陳述ヲ爲スニ方リ其陳述ヲシテ人ニ信
 ゼシメントノ意思ノ存在セシトヲ要ス去レバ諧謔相戯ム
 ル、ノ際ニ虚言ヲ吐キタルニ他人之ヲ信用シテ爲メニ損
 害ヲ被ムルトモ以テ詐欺アリト言フコトヲ得ズ
 (三)偽示ニ依リテ人ノ行爲ニ影響ヲ及ボサントノ意思アル
 ヲ要スライト對タルリスノ訴件(慣習法部二百八十三卷)ハ
 偽書出版ノ事ニ關ス原告ハシ、シ、スター、ルムノ日耳曼

書ヨリ譯出シタル晚祈禱ト題スル宗教ノ書籍ニ版權ヲ有
シタルヲ損害セラレタリトノ訴ヲ起シタル所之ニ對スル
有力ナル答辯ヲ受ケタリ其答辯ノ主意ハスタールムト云
フ人ハ日耳曼ニテ宗教上ノ著述家トシテハ隨分名ノ知レ
タル人ナリ然ルニ原告ガ版權ヲ所有セリト云ヘル書ノ如
キハ曾テスタールムノ著書ニ存セザル所ニシテ全ク原告
ニ於テフイツシト云ヘル人ヲ雇ヒ僞作ヲ爲サシメ之ヲス
タールムノ書ノ翻譯ナリト詐稱シ以テ公衆ヲ欺キ奇利ヲ
博スルノ惡計ヲ運ラシタル者ナリト云フニ在リ判決ニ曰
ク此ノ僞示ハ刑事上ノ詐欺ニ涉レリ則チ詐欺取財ノ類ト
看做サマルヲ得ザルベシ本件ノ如キハ彼ノ遊戯又ハ教育
ニ關スル書ヲ出版シタル場合ト同日ニ論スベカラズ遊戯

又ハ教育ノ書ニ關シテ自己ノ著作ヲ揚言シテ翻譯ナリト
シ又ハ僞名ヲ以テ出版スルモ大抵善意ニ出テ買者ヲ欺キ
テ奇利ヲ貪ラントノ深キ謀計ヲ企ツル者ニ非ズ且ツ斯カ
ル類ハ其性質ニ於テ公衆ヲ惑ハスノ恐ナク一見シテ其言
ノ眞僞ヲ判別スルニ足ル者ナリ又公衆ニ於テモ其翻譯タ
リ著作タルト著者ノ名ノ眞實タルト僞名タルトニ由リテ
其嗜好ヲ異ニセザル者ナリ然ルニ本件ニ於テハ原告ハ現
ニ存在セル高名ナル著述家ノ名ヲ僞稱シ深ク公衆ノ信用
ヲ欺カントノ計略ヲ施シタルナレバ爲メニ公衆ノ行爲ニ
影響ヲ及ホスコハ又疑ヒナキ所ナリ云々
(四)僞示ヲ爲ス者他人ヲ誘フテ其僞示ヲ信シ行爲ヲ爲サシ
メント欲スルノ意思存在スル以上ハ已ニ詐僞アリト認ム

べく其意思ハ如何ナル心モチ情ナリ即動ロ機シヨリ發起シタルカハ問フ
 ヲ要セズビーク對ガトニ（一）衡平法部四百三十六面（一）ニ於
 テ舊來ノ會社ハ大困難ニ陥リ維持モ六ケ敷キ場合トナリ
 タレバ爰ニ此ノ會社ヲ改良シ恰モ新會社ヲ起ス如キ計畫
 ニテ株主ヲ募集スル爲メ支配人ハ募集廣告書ヲ發シタル
 ガ其廣告書中ニ前會社維持困難ノ事實ヲ隱シテ記載セズ
 但シ支配人ハ新會社ノ事業ハ必ズ盛大ニ赴キ決シテ株主
 ノ迷惑トナルコトナカルベシト誠實ニ信用シ居タルコトハ明
 瞭ナリトス今支配人が斯ク會社ノ盛大ニ赴クベキコトヲ信
 用シタルヨリシテ重要ノ事實ヲ隱蔽シ株主募集ヲ計リタ
 ル者トセバ支配人ハ全ク善良ナル心情ヨリ事實ノ隱蔽即
 チ偽示ヲ爲シタル者ナリ此ノ心情ノ善良誠實ナルコトハ以

テ此ノ偽示ヨリ生ズル結果ノ責ヲ免カレシムルノ原因ト
 爲スコトヲ得ベキカト問ハンニ支配人ハ決シテ其責ヲ免カ
 ル、コトヲ得ザルナリ
 (五)偽示ニ由リ欺カレタル人カ行爲ヲ爲シテ自ラ損害ヲ被
 ムリタルト他ノ人ニ損害ヲ及ボシタルトハ毫モ差別ヲ生
 ゼズ共ニ詐欺タルノ結果ヲ來シタル者トス前ニ示シタル
 ラングリツシ對レビノ訴件ニ於テ被告ノ偽示ニ依リ直
 接ニ欺カレタル者ハ原告ノ父ナリ然レモ其ノ爲メニ損害
 ヲ被ムリタル者ハ原告ナリトス但シ此レ等ノ場合ノ如ク
 甲ガ偽示ノ爲メニ欺カレテ而シテ乙ガ損害ヲ被ムリタル
 甲ハ必ズシモ何レノ場合ト雖モ乙ハ出訴權ヲ有スル者ト
 解スベカラズ要スル所ハ乙ノ損害ト偽示者ノ詐欺トノ關

係ガ甚ダ遠疎^{リーモト}ナラザルニ在リ所謂遠疎ノ損害ハ起訴ノ權ヲ生ゼザル者ナリ故ニ詐欺ニ依リ損害ヲ受ケタリトノ訴訟起ルトキハ必ズ二箇ノ各別ナル點ヲ審究スベシ即チ第一ニハ被告ハ詐欺ノ行ヒアリシヤ第二ハ原告ノ損害ハ被告ノ詐欺ヨリ生シタル者ニテ詐欺ト損害トノ關係甚ダシク遠疎ナラザルヤト云フ是レナリ此ノ二點ハ往々人ノ混淆スル所ナレモ最モ重要ナル法理ナレバ宜ク注意ヲ爲スベキ者ナリ

(丁) 偽示^{サフセクト、マツタレ}ノ物料 偽示ノ物料トハ如何ナル事柄ニ付キ詐欺ノ表示ヲ爲シタルカトノ問題ニ答フルモノヲ云フナリ即チ一般ノ規則ハ偽示ハ必ズ事實ニ付キテ爲サレタルヲ要スト云フニ在リ故ニ事實ニ非ザル事柄ニ付キテ虛妄

ノ表示ヲ爲スモ必ズシモ偽示トハナラザルナリ故ニ
(一)法律ヲ偽稱スルモ詐欺トハ看做スベカラズ但シ是レニハ數箇ノ制限アリ

(イ)偽示シタル事柄ハ實際法律上ノヲタルモ其偽示ヲ受ケタル者ヘハ恰モ事實ニ付テノ表示ノ如クニ見ヘタルキハ其偽示ヨリ生シタル損害ハ偽示者ノ責任スベキ所タリアンドルース對ハウレノ訴件ハ其一例ナリ(シロ、アナル部二十六卷エキスチ)ピユート云ヘル人ハ元來原告ノ爲メニ行商ヲ爲ス者ナリシガ千八百五十四年九月ニ至リ原告ハ之ヲ解雇シタリピユートノ代理人タル人即今ノ被告ハ或ル法學士ニ就キテ原告トピユートハ組合商業ヲ爲セタル者ナルカ否ヲ尋子タリ而シテ被告ハ原告

ノ得意先キ「組合商業解除」ノ旨ヲ認メタル廻章ヲ發シ
 以テ其得意先ヨリビユトへ金額ヲ拂ハシメタリ此訴件
 ニ於テ被告ハ是レ法律上ニ關スルコナリ何トナレバ右兩人
 シタルハ是レ法律上ニ關スルコナリ何トナレバ右兩人
 ノ果ノ組合商業ヲ組成シ居タルカ否ハ全ク法律ノ問題
 ニ屬スレハナリ然レモ其表示ヲ受ケタル原告ノ得意先
 キハ之ヲ事實ナリト信シタル者ト知ラル斯カル場合ニ
 於テハ被告ノ表示ハ之ヲ僞示ナリト認メラルベク從ヒ
 テ其責ニ當ラザルヲ得ザルベシ
 (ロ)法律上ニ付キ表示ヲ爲ス者其表示ノ虛妄ナルコトヲ自
 ラ熟知シ居タルニ於テハ彼レハ詐欺ニ出デタル僞示ヲ
 爲レタリトノ認定ヲ免ル、コトヲ得ザルベシトノ説アリ

余ハ未ダ遽ニ其是非ヲ斷言スルヲ好マズ抑モ法律ハ人
 民タル者ノ悉ク知ルヲ要スル所ノ者ニ設ヒ實際ハ之
 レヲ知ラザルニモセヨ法律上ヨリ見ルモハ人民ハ之ヲ
 知悉スル者ト推測セザル可ラズ果シテ然ラハ他人ガ國
 法ヲ詐リ稱シタルヲ信シタルニ由リ自ラ損害ヲ受ケタ
 リモソハ自ラ知ル可コトヲ知ラザルヨリ出デタル結果ニ
 シテ法律ハ自ラ知リ乍ラ好テ之ヲ受ケタル者ト推定スル
 モ強チ非ナリモ言ヒ難カラシ歟現ニ事實ヲ僞示スル場
 合ニ於テモ表示ヲ爲ス者曖昧ノ言語ヲ用ヒタルモ其
 表示ヲ受ケタル者ハ自ラ其實否ヲ檢覈スルノ義務アリ
 テ若シ輕卒ニ彼ノ曖昧ノ言ヲ信シ損害ヲ受ケタランニ
 ハソハ自ラ義務ヲ怠リタルノ結果タレハ法律ハ詐欺ノ

責ヲ表示者ニ負ハシムルヲ許サミルニ非ズヤ然ラバ
 則チ彼ノ法律上ノコヲ虚示スル場合ノ如キ特リ其表示
 ノ實否ヲ検査スルノ義務アルノミナラス已ニ之ヲ知ル
 者ナリト法律ヨリ推測セラル、程ナリトセバ萬一之ヲ
 知ラズン他人ノ偽示ニ欺カレタリ此詐欺ノ訴ヲ起スノ
 權ナシトスルノ理アルガ如シ姑ク疑ヲ存シテ讀者ノ判
 斷ニ任ス

(ハ)幼者ト後見人トノ間ノ如キ一方ハ全ク他ノ一方ニ信
 用ヲ置ク場合ニハ法律上ノ偽示モ亦詐欺ノ結果ヲ生ゼ
 ザルヲ得ザルベシ即チ斯クノ如キ信任アル關係ノ人ヲ
 舉グレバ父子、夫婦、醫師ト患者、代言人ト依頼人、幼者ト後
 見人等ナリ

(二)意見ヲ表示スルコト 或ル意見即チ心中ノ有様ヲ有スト
 云フ事實ヲ表示スルハ他ノ事實ヲ表示スルト異ナルヲ無
 シ故ニ有セザル意見ヲ有スルト偽陳スル如キハ素ヨリ詐
 欺ノ責ヲ免カレズ○然レヒ其表示ハ表示者ガ其時ニ有セ
 ル意見ヲ吐露シタルニ止マリ其意見ヲ後日マデモ變ゼザ
 ルトノ約束若クハ擔保ヲ爲シタル者ニハ非ズ○シ
 ヲリマニニ對スル訴件(衡平法部八百六十五面)ヲ見ル
 ニ原告ノ妻(甲)ハ未ダ原告ト結婚セサル前被告(乙)ニ係リタ
 ル貸金ノ證文ヲ所有セシガ元來甲乙兩人ハ交際ノ親密ナ
 ル中ナリシニ由リ乙ガ近々婚姻ヲ取結ブ由ヲ聞キ甲ハ乙
 ニ向ヒテ曰ハク彼ノ證文ニ付キテハ決シテ足下ニ迷惑ヲ
 懸ケザルベシ余ハ彼ノ證文ヲ拋棄シタリ必ス彼ノ證文ノ

履行ヲ請求セザルベシト去レド乙ヨリ其證文ヲ實際返却
 シ吳レシトヲ求メタレバ甲ハ「否余ノ言ヲ信用セラレヨ大
 丈夫ナリ」ト答ヘテ證文ヲ返サマリシ其後乙ハ結婚ヲ了
 ヘ甲モ次デ原告ニ嫁シタルガ今ヤ甲ハ夫原告ト連署シテ
 彼ノ證文ノ履行ヲ求ムル爲メ被告乙ヲ相手取り出訴ニ及
 ビタリ判決ニ曰ハク被告ハ原告ノ出訴ヲ差止メ^{インジャンクシヨ}ン
 請スレ^レテ決シテ差止メヲ求ムルノ權利ナ^レ何トナレハ先
 キニ原告ノ妻(甲)ガ被告ニ對シテ述べタル言ハ之ヲ適法ノ
 契約トモ又ハ事實ノ偽示トモ認ムベカラズ唯當時甲ガ其
 心中ニ於テ彼ノ證文ヲ履行セシメザルベシト思ヒタルガ
 マ、ニ其意想ヲ陳述シタルニ過キズシテ其後ニ至リテ其
 意想ヲ變更シタル限リハ前ノ意想通りヲ強ヒ遂ゲ^ルメ^ン

ト欲スルモ叶ヒ難キコナリ
 (三) 未來ノ事實ヲ表示スルコト 未來ノ事實ヲ表示スルトハ
 左ノ數箇ノ場合ヲ指シ云フモノナリ
 (イ) 後日或ル事ノ生ズベシトノ單一ノ約束 ○ 斯カル單一
 ノ約束ハ將來或ル行爲ヲ爲スベキ約束ト區別スルヲ要
 ス何トナレハ將來或ル行爲ヲ爲スベキ約束ニハ其時ニ
 於テ其行爲ヲ爲スベキ^{プレゼント、インテンション}現在ノ意思ヲ含蓄スルヲ以テナ
 リ例セバ物品ヲ買フ人カ其品ノ代價ヲ拂フコトヲ約束ス
 ルト云フ^ルハ其代價ヲ拂ハント欲スル現在ノ意思ノ存
 在スルコト明ナリ
 (ロ) 表示ヲ爲セタル^ルニ有シタル^{オレニカシ}意見 ○ 若シ表示者ノ心
 中將來某々ノ事件必ズ生ズベシト信シタルナ^ラバ其表

示ハ眞實ナレモ若シ自ラ之ヲ信セズレテ吐露シタルナ
 ラハ虚妄ノ表示ナリ
 (ハ)將來ニ於テ或ル事件ヲ生ズルノ原因トナルベキ事實
 ノ現存ニ關スル表示
 (ニ)表示者ガ其表示ヲ爲ス事件ニ付キ特別ナル知識ヲ有
 スル場合ニ於テ其事件ニ關シテ意見ヲ陳アルコト
 以上ハ皆ナ未來ノ事ニ付キテノ表示ニ屬スル者ナルガ
 法律書ニ於テハ未來ノ事ニ關スル表示ハ決シテ詐欺ノ
 偽示トナルコトナレト記載スルヲ見受ケタレモ強チニ然
 ルニ非ズ或ハ場合ニ由リテハ未來ノ事ノ表示ニテモ偽
 示ヲ構成スルコトアリ何トナレバ未來ノ事ト現在ノ事ト
 ヲ問ハズ都テ心中ノ思想斯々ナリト陳ズルモハ是レ則

チ心中ノ有様ト稱スル一箇ノ事實ヲ陳述スルニ外ナラ
 ザレバ夫レガ虚妄ノ陳述ニテアラシムニハ他ノ事實ヲ陳
 述スルト同様ニ偽示トセラル、ハ勿論ノコトナラン
 (四)約束ノ表示(プロミソリー、レプレゼンテイション) 單ニ
 約束スル所ノ言語ハ其約ヲ破リタルトキト雖モ詐欺ノ表
 示トハ認ムベカラズ然レモ衡平法裁判所ハ之ヲ以テ直ニ
 約束ナリト看做スノ風アリトス一例ヲ舉ゲテ之ヲ説明セ
 シニピグゴットヨリストラットンニ對スル訴件(ロ、シヨ
 九卷 衡平)ヲ見ルニ「アール、エス(甲)ハ千八百四十五年ニイ、
 法部一面」ヲ見ルニ「アール、エス(甲)ハ千八百四十五年ニイ、
 ロ、ハ、ノ三印ニ區別シタル地面ヲ「ダブルユ一、エス(乙)ニ九百
 九十九年ノ年限ニテ貸與シタリ此ノ貸借地契約ニ於テ乙
 ハ「ハ」印ノ地面ノ上ニハ或ル方位ニ向テハ家屋ヲ建築セザ

ルベキ旨ノ約束ヲ爲シタルモノナリ借テ乙ハ「イ」印ノ地面
 ノ上ニ建築シタル家屋ヲ原告ニ賣渡シタリ而シテ此ノ賣
 買ヲ爲ス節ニ乙ハ原告ニ向ヒテ云ハク余(乙)ハ地主トノ契
 約ニ於テ「ハ」印ノ地面ノ上ニ家屋ヲ建築シテ「イ」印ノ地面ヨ
 リ海上ヲ望ムノ眺望ヲ妨グルヲ得ザルノ約束ヲ爲シタリ
 ト又乙ハ「ロ」印地面ノ幾分ノ^{アングリース}又貸シテ丙ニナシ而シテ其又
 貸ヲナス節乙ハ地主ト約シタル彼ノ不妨眺望ノ約束ヲ
 丙ニ對シテモ守ルベク若シ之ニ背クハ丙又ハ丙ノ代權
 人ニ償金ヲ拂フベキ旨ヲ證書ニ記載シタリ其後原告ハ丙
 ヨリ此ノ「ロ」印地面ノ又借ヲ讓受ケタリ又乙ハ一旦元トノ
 借地ヲ甲ニ返却シ改メテ甲ヨリ同地ノ借受ヲナシタリ然
 ルニ此ノ改正シタル貸借契約ニ於テハ乙ハ「ハ」印ノ眺望ヲ

妨ケザルノ約束ヲ存セズ是ニ於テカ乙ハ舊契約ノ旨ニ背
 キ「ハ」印ノ地面上ニ家屋ヲ建築スルトニ取掛リタリ依テ原
 告ハ衡平法裁判所ニ訴ヘテ乙ノ建築ヲ差止メントヲ請求
 シタリ「バイス、チアンサロル」官ウー^ドハ乙ガ丙ニ向ヒテ爲
 シタル所ノ口頭ノ表示(即チ「ハ」印地面ノ眺望ヲ妨グル如キ
 方法ニ「イ」印地面上ニ建築ヲ爲サザル約束ヲ云フ)及ヒ其後
 ノ乙ノ舉動ニ依リ乙ハ斯カル建築ヲ爲シ得ザル者トノ理
 由ニ據リテ原告ニ差止ノ事ヲ許シタリ乙ヨリ上告ヲ爲シ
 タル所原判決ハ破毀スルノ理由ナシト申渡サレタリ而シ
 テ其理由トスル所ハ原裁判ノ如ク單ニ乙ノ表示ニ基ツク
 ノミナラズ又貸借ノ契約書ニ於テ地主トノ舊契約ヲ守ル
 ベキ旨ヲ記載シタルハ即チ其舊契約ニ於テ約シタル事柄

ヲ再ビ又貸借契約書ニ記入シタルト同様ノ功カアルベシトノ理由ナリキ

又ハムマースレーヨリ「パロン」デ、ピールニ對スル訴件ニ於テ一婦人ノ父ハ其婦人ノ結婚ヲ申込ミタル書面ニ於テ左ノ如ク認メタリ曰ハク婦人ノ父ピール、チーハ一萬磅ノ金ヲ婦人ニ贈遺スル積リナリ此ノ事ハ多少改正スル所モアルベケレモ先ツ計畫ノ大体ハ斯ノ如クナレバ貴公ニ於テ之ヲ信用シ給フモ氣遣ヒナシト「パロン」某ハ此ノ結縁ノ相談ヲ受ケ即チ目出度結婚ニ及ビタリ然ルニ其後彼ノ婦人ノ爲メニ作りタル結婚財産證書ヲ見レバ右ノ一萬圓ノコハ更ニ記載セズ且ツ婦人ノ父ハ一萬圓ノ贈遺ヲ爲サマリシト云フ裁判所ハ父ノ遺留財産中ヨリ右ノ一萬圓ニ父ノ

死シタル時ヨリノ利子ヲ加ヘ婦人ニ拂渡スベキ義務アリト判決セラレタリ

又ウイールリアムヨリウイールリアムニ對スル訴件ニ於テ（ロ）シヨアナル、三十七卷八百五十四面）甲ノ娘ハ將ニ乙ニ嫁セントスルニ當リ甲ハ其娘ニ約シテ曰ハク若シ乙ノ父ガ二百圓ヲ乙ニ與フルナラハ余モ汝（娘）ニ同額ノ金ヲ與フベシト乙ハ甲ニ向ヒテ曰ハク余ノ父ハ必ズ二百圓ヲ余ニ與フベシト於是乎甲ハ二百圓ヲ與ヘタリ其後結婚ヲ實行シタルガ乙ノ父ハ單ニ五十圓丈ヲ拂ヒタルマ、ニテ死去シタリ依テ乙ハ父ノ遺留財産ノ中ヨリ百五十圓ヲ得ンコトヲ請求ス裁判所ハ其請求ヲ許容シタリ

（戊）偽示ノ輕重（マテリアリチ）ニ律書ヲ案ズルニ若シ契約

ニ必要ナラザル事柄ニ關シテナシタル偽示ナランニハ之ヲ詐欺ト看做スベカラズトノ說ヲ立ツル者少シトセズ今之ヲ詳論スル左ノ如シ

若シ偽示者ニ於テ詐リ欺クベキノ意思存在スル限リハ其偽示ハ果シテ契約ノ重要ノ事柄ニ付キテナシタルト否ハ必ズシモ問フヲ要セザルヘシ

然レモ若シ偽示者ニ於テ眞實ナリト信シタルヨリシテ虛妄ノ表示ヲ爲シタルナラバ一般ニハ詐欺ト看做スコナシ唯其表示レタル事柄ガ重要ノ事柄ニテアリシ場合ニ於テノミ詐欺アリト看做サルベキナリ

以上陳述シタル所ニテ大抵偽示ニ關スル要點ヲ論シ盡シタリ左ノ規則ハ序デナカラ爰ニ記入ス

(一) 詐欺ノ結果ヲ生ズルニハ偽示ヲ受ケタル者ニ於テ實際其偽示ニ依テ欺カレタルコトヲ要ス

(二) 人若シ自己ノ大過失ニ依リテ他人ノ欺キニ陥リタルナラバ詐欺ヲ申立テ、救濟ヲ請フノ理由ト爲スコトヲ得ズ

(三) 然レモ深ク謀計シテ他人ヲ欺罔シタル場合ニ於テハ欺カレタル人ニ大過失ノアリシヤ否ハ問ハズ都テ詐欺ノ結果ヲ生ズルコトナリ

第二 偽示ニ非サル所ノ詐欺

第一 背信(ブリーチ、ツラスト)

人ノ信用ニ違背スルコトハ何レノ場合ヲ問ハズ必ズ詐欺トナルカト云フニ決シテ然ラズ或ハ懈怠ヨリシ或ハ考へ過トヨリシテ人ヨリ受ケタル信用ニ背クコトモアルベキナリ

去レド或ル種類ノ背信ハ詐欺トナル者トス之ヲ詳論スル
 左ノ如レ
 (一)或ル目的ヲ達スル爲メニ他人ヨリ權利、權力、特權等ヲ受
 ケ我レニ於テ之ヲ受ケタルハ或ル目的ヲ達スル爲メタル
 ヲ知得シナガラ他ノ目的ヲ達スル爲メニ此ノ權利等ヲ
 使用シ又ハ全ク之ヲ使用スルヲ拒ム如キノ所爲ハ之ヲ
 詐欺ニ出デタル背信ノ所爲ナリトス
 一例ヲ舉グレバスコットヨリリバプール會社ニ對スル訴
 訟ニ於テ原告ハ左ノ規約ニ從ヒ事業ヲ執ルベキ約ニテ被
 告ト契約ヲ結ビタリ即チ原告カ事業ヲ爲ス爲メニ被告權
 ノ土木家ハ或ル土地ヲ原告ニ與フベク原告ハ之ヲ受クル
 後或ル期限ノ内ニ其事業ヲ遂グベク若シ原告ノ過誤ニ非

ズシテ其事業ヲ遅延セザルヲ得ザルノ故障ヲ生ズルヲア
 ルトハ彼ノ土木家ニ於テ事業ノ時期ヲ延期スルノ權ヲ有
 シ原告ハ土木家ノ鑑視ヲ經タル上ニテ被告ヨリ金圓ヲ請
 求スルノ權アルベク若シ原告被告ノ間ニ異議ヲ生ズル
 アルニ於テハ土木家ヲ以テ仲裁人ニ充ツベキ事等ノ規約
 ナリシ然ルニ土木家ハ指定ノ時日ニ於テ彼ノ土地ヲ原告
 ニ渡サマルガ爲メニ事業ハ從ヒテ遅延ニ及ビタレト土木
 家ハ原告ニ事業ノ延期ヲ與フル事ヲ許サズ之ガ爲メニ原
 被ノ間ニ起リタル紛議ヲ土木家ノ仲裁ニ付シタレト土木
 家ハ之ヲ裁定スルヲ敢テセズ裁判所ハ此ノ土木家ノ所
 爲ヲ以テ詐欺ナリト判決シタリ
 又アガジーズヨリスクワイアニ對スル訴訟ニ於テ(ヨロ、シ

ル二十三卷(衡平法)或ル權力ヲ受ケタル人が捺印證書ヲ作
 部九百八十五面)リテ自ラ受ケタル權力ヲ陰ニ他人ニ與フルノ計ヲ運ラシ
 タルニ裁判所ハ此ノ證書ヲ詐欺ニ出テタル者ナリトモテ
 無効ニ歸シタリ
 裁判所ニ對スル詐欺
 表面ヨリ裁判所ヲ欺ク爲メニ詐欺ヲ行フルハ之ヲ法廷ノ
 侮辱ト云ヒ刑法ノ罪トナルベシ
 然ルニ裁判所ヲシテ其職務ニ非ザルヲ行ハシメントノ
 意ヲ以テ或ル行爲ヲ爲スルハ之ヲ詐欺ト看做ス
 一例ヲ舉グレバシートンヨリグラントニ對スル訴訟(シロ
 アナル三十六卷)ニ於テ甲ハ或ル會社ノ事業ニ關シテ告發
 六百三十八面)ヲナシタルガ元來甲ハ此ノ訴訟ヲ起サンガ爲メニ至テ僅

少ノ株券ヲ買求メテ株主ノ資格ダケヲ得タル者ナリ「バイ
 ス、ナアレサロル」官マリシスハ此ノ訴訟ハ詐欺ニ出テ全ク
 裁判所ヲ瞞着シタル所爲ナリト云ヘリ但シ此ノ訴訟ハ株
 主一同ノ爲メニ提起シ敢テ原告一人ノミノ私利ヲ計ルガ
 爲メニ非ザレバ棄却ニハナラザリシ
 タツクヨリグツクニ對スル訴訟ニ於テハ(ロ一、シヨアナル
 部四百五)千八百六十三年ニ甲ト乙トノ結婚ヨリ生ズベキ
 子女ノ爲メニ金一千磅ヲ管財人ニ信託シ若シ子女ノ生ゼ
 ザルニ於テハ丙及ヒ其子女ノ利益ニ歸スベキ筈ナリトス
 然ルニ此ノ財産信託ヲナシタルト同日ニ於テ甲乙ハ離婚
 ヲナシタルガ此ノ二人ノ間ニ生ジタル一子アリ其子ハ正
 當ノ子ナルカ將タ私生ノ子ナルベキカノ一點ヲ定メン

ヲ欲スルノ唯一目的ヨリシテ此ノ訴訟ヲ起シタルコトナリ
 此ノ訴訟ニ於テ丙ハ彼ノ一子並ニ管財人ニ對シテ此ノ信
 托ノ通りヲ實行セラレ甲乙間ニハ正當ノ子アラザルコトヲ
 判決アラフコトヲ請求シタリ然ルニ判事ウー^ドハ此ノ訴訟
 ヲ却下セテ曰ハク信託財産ヲ争フトノ旨ヲ訴狀ニ記載ス
 レ^レ是レ本訴ノ具ノ目的ニ非ザルカ故ニ本訴ハ詐欺ニ成
 立ツモノト認ムト^ス
 第二ニ過度ノ勢力(アンデ^ド、インフル^ーエンス)
 (一)過度ノ勢力ト云フコトハ衡平法裁判所ニ於テ契約贈與等
 ヲ取消ニ付スル原因ト看做ス者ナレ^レ之ニ一定ノ解ヲ下
 レタルコトハ古來未ダ曾テ之レナキ所トス今過度ノ勢力ト
 ハ何者タルカヲ解説セシニ契約ヲ結ハシメ又ハ財産ノ贈

與ヲ爲スコトヲ誘勸シタル爲メニ用ヒタル一方ノ者ノ勢力
 ガ其結約者贈與者ノ自由思想ヲ抑制シタルベキコトヲ其人
 ノ年齢能力若クハ一般ノ景況ヨリ十分ニ推量シ得ル場合
 ニ於テハ其勢力ヲ稱シテ過度ノ勢力ヲ云ヒ取引ヲ取消ス
 ノ原因トナル者ナリ蓋シ過度ノ勢力ハ恰モ詐欺ト^ア強迫ト
 ノ中間ニ位スル者ニシテ過度ノ勢力ノ爲メニ對手人ヲ脅
 嚇シ畏縮セシメタル時ハ強迫ニ類スベク對手人ヨリ得ル
 ル^{コンフィデンス}信任ニ由リ過度ノ勢力ヲ行フ時ニハ背信ノ所爲即チ詐
 欺ニ類スベシ然レ^レ同ク信任ヲ破リタル場合ニテモ過度
 ノ勢力ト稱スベキ者ト背信ト稱スベキ者トノ間ニハ差異
 アリトス過度ノ勢力ノ場合ニ於テハ信任ヲ置ク者ノ心中
 ノ模様ヲ量考スル者ナレ^レハ其人ガ受信者ニ對シテ信用シ

依頼スルノ氣味アルニ乗ジ其人ヲシテ或ル害ヲ招クノ
ヲ爲サシメタル者ナリ然ルニ背信ノ場合ニ於テハ受信者
ガ有スル所ノ權方便益等ヲ指シテ直ニ信任ト稱スル者ナ
レバ前ノ場合ニ於ル信任者ノ信任アルニ於テハ從ヒテ此
ノ場合ニ於テ信任ヲ生スヘキ理ナリ例セバ商店ノ主人ガ
番頭ニ信任ヲ措クヨリシテ之ニ商事ノ機密ヲ告グル如キ
主人ガ心中ニ信任依頼ノ氣味アルコトハ前ノ場合ノ信任ニ
シテ之ガ爲メニ番頭ガ信任セラレタル便益權力等ハ後ノ
場合ノ信任ナリ去レバ背信ノ所爲ニ付キテハ苟モ一方ノ
者ガ實際他ノ一方ノ者ニ後ノ意味ニ於ル信任ヲ措ケル限
リハ果シテ其心中ニ第一ノ意味ニ於ル信任ノアリシカ否
ハ問フヲ要セザル所トス蓋シ場合ニ依リテハ心ニハ信用

ヲ置キ兼ヌル人ニモ餘儀ナキ事情ヨリシテ自己ノ事務ヲ
依托スルコトアルベシ斯カルニハ信任者ニ於テハ毫モ信任
スルノ意ナキニモゼヨ受信者ガ托セラレタル權利便益等
ヲ害用スベカラザルノ義務アルコトハ實際信任者ニ於テ
之ヲ信用シタル時ト異ナルコトナシ
(二)次ニ過度ノ勢力ヲ行ヒタルコトヲ思量スル方法ヲ論究
スベシ蓋シ過度ノ勢力ノ存在ヲ證明スルコト并ニ之レヲ
思量スルコトニ關スル規則ハ頗ル困難ナル問題ナリトス
要スルニ格段ノ場合ニ於テ勢力ノ濫用セラレタルコトヲ
證明スルコトヲ要セザル者ナリ一方ノ者ガ他ノ一方ノ者
ニ對シ勢力ヲ有スルノ地位ヲ占ムルコト一旦指示セラレタ
ル以上ハ此ノ兩人ノ間ニ爲シタル取引ハ勢力者ノ誘導ニ

出デタル者ト思量セラレベシ而シテ其ノ勢力アル地位ヲ
 占ムルコトハ双方ノ者ノ關係若クハ其ノ取引ノ性質ヨリ
 思量スル者トス故ニ爰ニハ二重ノ思量ヲ爲ス者ナリ即チ
 一ハ双方ニ就キテノ事實ヨリ勢力アル地位ヲ占ムルコト
 ヲ思量シ二ハ其勢力ヨリシテ之レヲ施用シタルコトヲ思
 量スルナリ其ノ例ヲ示サバ父子ノ關係後見人ト幼者トノ
 關係ヨリシテ父又ハ後見人ニ勢力アルコトヲ思量スルノ
 類ナリ

第三 第三ノ人ヲ害スベキ所爲
 (一)所爲ノ性質 第三ノ人ニ害ヲ加ヘント欲スルノ意思ヲ
 以テ爲セタル所爲ハ詐欺ノ一種ニシテ取消シ得ベキ性質
 ノモノトス斯カル所爲ハ二人又ハ其以上ノ人が互ニ取結

ビタル合意ヲ指スヲ常例トス此ノ合意ハ則チ不法ノ合意
 タルベキ者ナレバ單ニ取消シ得ベキノミナラズ未行ニテ
 アル間チラバ全ク無効ノ者ナリ若シ既ニ執行シ終リタル
 上ナラバ合意者双方ノ間ニハ有効ト同様ノ結果アル者ト
 ス然レモ其不法タルト否トヲ問ハズ害ヲ受ケタル第三ノ
 人ニ對シテハ詐欺トナルガ故ニ其人ニ對シテハ設ヒ執行
 シ了リタル後ト雖モ全ク無効ナルベシ最モ普通ノ一例ハ
 債主ノ權利ヲ傷害スル爲メニ負債主が其財産ヲ他人ニ讓
 渡ス場合はレナリ又イীগアンス對エドモンド(アロ、ジヨ
 十二卷摺習法裁判)ニ於テハ有夫ノ婦ト其情夫トが私事ヲ
 所部二百十一面)ニ於テハ有夫ノ婦ト其情夫トが私事ヲ
 便ナラシメント欲シ婦人ノ夫ニ説キ勸メテ夫婦別居ヲナ
 サシメ夫ヨリ別居ノ婦人ノ養料ヲ給スベキ契約ヲ結バシ

メタルニ裁判所ハ詐欺ヲ以テ取結バシメタル者ト看做レ
 夫ニ對シテハ無効ナリト判決シタリ又ツリト對^ルマ
 (ル)決録二百七十四面州判ニ於テ定メタル規則ニ依レバ甲ガ
 自己ノ物品ヲ乙ノ物品ト混淆セリ尤モ其混淆ハ甲乙ノ物
 品ヲ全ク判別シ難キニ至ラシメタルニハ非ズシテ甲自ラ
 ニ於テハ能ク之ヲ判別シ得ベシ乙ノ債主ハ乙ノ物品ヲ差
 押フル爲メ甲ニ此ノ混淆ヲ分別センコトヲ請フモ甲ハ之ニ
 應セズトセンニ單ニ此ノ事實ノミヲ以テスルハ未ダ債
 主ハ甲ノ物品ヲ乙ノ物品ト一同ニ差押フルノ權ヲ有セザ
 レモ若シ甲ガ乙ノ債主ヲ欺カントノ意思ヲ以テ乙ノ物品
 ト混淆シタル者トセバ債主ハ此ノ混淆品ヲ差押フルノ權
 アリトス之ニ由リテ見ルハ二人合意シテ第三人ヲ害ス

ルコトヲ詐欺トナスノミナラズ一人ノ所爲ニテモ詐欺ト看
 做サルハノ場合アル者ナリ
 (二)右ニ依リテ考フルニ此ノ種ノ詐欺ヲ構成スルニハ所爲
 ヲ爲ス者(少クモ其中ノ一人)ノ意中ニ於テ法律ニ意思ト稱
 スル者ヲ有セザルベカラズ單ニ或ル結果ヲ生ズベキコトヲ
 知ルノミニテハ未ダ足ラズ故ニ負債主ガ自己ノ金圓ヲ浪
 費スルモ其心中唯之ガ爲メニ負債償却ノ資金ヲ減少スル
 コトヲ知ルニ止マラバ負債主ノ所爲ハ詐欺ヲ以テ目スベカ
 ラズ然レモ若シ之ニ由リテ他人ヲ害スベキ結果アルコトヲ
 信シタルハ詐欺アリト去レバ二人相約シテ第三ノ人
 ノ雇人ヲ誘ヒ主人ノ家ヲ脱セシメンコトヲ謀ルトセンニ若
 シ此ノ二人ノ者ハ正實ニ雇人ガ何時ニテモ主人ヲ去ルノ

權アル者ト信シタルナラバ二人ハ詐欺ノ責ヲ受クルノ理
 ナカルベシ
 詐欺ノ結果
 詐欺ヲ講究スル者ハ其ノ法律上ニ於ケル結果ニ三種ノ別
 アルヲ知ラサル可カラズ即チ三種ノ結果トハ第一ニ詐欺
 ノ訴權ヲ生ズル者第二ハ合意ヲ取消シ得ベキ者第三ハ直
 接ノ執行ヲ拒絕スル者はレナリ如何ナル詐欺ガ何レノ結
 果ヲ來スカハ既ニ詐欺ノ各種ヲ論シタル所ニ於テ明示シ
 タレバ爰ニハ之ヲ復説スルヲ要セズ
 詐欺ノ訴權トハ詐欺ヲ受ケテ損害ヲ被ムリタル者ガ詐欺
 者ニ對シ損害要償ノ訴ヲ起スノ權ナレバ其詐欺ノ契約ニ
 關係シテ爲サレタル事ト否トヲ問ハズ都テ犯權即私犯上

ノ訴權ナリトス凡ソ此ノ詐欺ノ訴權ト稱スル者ハ詐欺ノ
 諸結果中ニテ最モ嚴重ナル者ナレバ此ノ訴權ヲ生ズルノ
 詐欺アル事ハ其ノ爲メニ取結バサレタル契約ハ必ズ取消
 シ得ベキ者トナルナリ
 契約ガ詐欺ノ爲メニ取消シ得ベキ者ナル時ニ此ノ取消權
 ヲ有スル者ハ必ズシモ自ラ出訴シテ取消ヲ請求スルヲ要
 セズ相手人ヨリ契約履行ヲ認求セタルトキ之ニ對シテ此
 ノ契約ノ詐欺ニ成立ツコトヲ陳述シテ履行ノ認求ニ抗抵ス
 ルコトヲ得ヘシ然レモ未ダ抗抵ヲ爲ササル間ハ其契約ハ尙
 ホ存在スル者ナレバ或ル事情ノ起リタルガ爲メ遂ニ其契
 約ヲ取消スノ權ヲ失フニ至ルコトアレバ詐欺ヲ發見スル事
 ハ速ニ自ラ契約取消ヲ請求スルニ若カザルナリ而シテ右

ニ所謂取消權ヲ失ハシムル所ノ事情トハ被欺者カ自ラ其
契約ニ由リ利益ヲ領收シタルコト又ハ詐欺ヲ發見シタル後
被欺者ガ其契約ニ付キ行爲ヲ爲シタルコト又ハ其契約ノ目
的物ヲ處置シテ最早ヤ結約者双方ヲシテ以前ノ地位ニ復
セシムベカラザルニ至レルコト又ハ取消シテ求ムル前ニ第
三ノ人ガ其事情ヲ知ラズシテ既ニ報酬ヲ出シテ其物品ノ
所有權ヲ得タルコト等是レナリ右最終ノ件ニ關スル一例ヲ
舉グレバ詐欺ノ手段ヲ以テ或ル物品ヲ讓受ケタル人が既
ニ第三ノ人ニ其物品ヲ賣渡シ此ノ第三ノ人ハ彼ノ詐欺ノ
事情ヲ知ラザル時ハ完全ノ所有權ヲ得タル者ナレバ其後
ニ及ンデ被欺者ヨリ詐欺者ニ向ヒ該物品讓渡シノ取引ヲ
取消サント欲スルモ得ベカラザルナリ

詐欺詳說畢

新編 海防

明治十七年十二月九日出版御届
同 十八年一月出版
同 年四月七日再版御届

明治十七年十二月九日出版御届

同 十八年一月出版

同 年四月七日再版御届

定價金貳拾錢

著者

山口縣士族

渡邊安積

東京府麴町區上二番町
四十六番地寄留

出版人

神奈川縣平民

早矢仕民治

東京府日本橋區上槇町
三番地

發兌

東京日本橋通三丁目

丸善書店

賣 捌

東京銀坐四丁目

博

聞

社

同日本橋西河岸

須

原

鐵

二

同南傳馬町

叢

書

閣

西京河原町通二條下

大黒屋太郎右衛門

終

5